

山田宏の タックル ニュース

令和2年号

1月1日

令和2年

発行

山田宏よい国後援会
機関紙



自民党



令和2年度歯科関連予算・災害関連も含め 今年度予算の2倍の16億円超！

参議院議員 山田宏

安倍総理と二階幹事長に直談判

令和初めての新春を迎えました。昨年もお世話になりました。ありがとうございました。本年もどうかよろしく願っています。

さて、昨年の「己亥（つちのえ）」の年は、「乱れを正す年」でした。そして今年の「庚子（かのえね）」の「庚」とは、「更」であり、前年にやり始めたことを継続しながら、さらに一歩一歩更新し、進化させていく年です。

また「子」は「種子」で、「増える」ことを意味し、今年には昨年正した流れを継続しつつ、進化させ、様々のものを増やしていく年となります。

今年、疾病予防や介護予防という健康政策の柱にしっかりと歯科をすえ、「国民皆歯科健診の実現」という公約に向かって、さらに歩みを進めていきたいと思っています。

歯科保健関連予算の推移



グラフ1 歯科保健関連予算の推移(山田宏事務所作成)



令和元年12月11日 緊急要望の提出

内閣総理大臣 安倍 晋三 殿

歯科口腔医療充実に向けての緊急要望

歯科口腔医療勉強会
顧問 岸 信夫
座長 山田 宏

人生100年時代に臨み、生涯を通じた疾病予防や介護予防といった健康政策が極めて重要になっており、予防といった観点でも歯科口腔医療の充実こそが切り札になりつつあることは、これまでで政府が十分に認識され、様々な取り組みが実施されてきているところです。

そして令和2年度は、すべての団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年まで残すところ6年となる年であり、予防と健康政策の柱としての歯科口腔医療政策の充実に一層力を入れていかなければならないと考えます。

そこで、私たちはこの度の診療報酬改定と案年度予算、そして補正予算策定の最終局面にあたり、下記の通りの事項につき特段のご配慮を賜りたく要望いたします。

- 令和2年度診療報酬改定では、前回は上回る改定率を要望する。
口腔内の環境が健康であることが、医療費の削減効果をもたらすというエビデンスが確立している。歯科医療費は総医療費のわずか0.9%で2兆9千億円余に過ぎず、この状況下で世界一安価な診療報酬で世界有数の高度な歯科診療レベルを維持している歯科関係者の努力も限界にきており、診療報酬のプラス改定の実現を強く要望する。
- 令和2年度厚労省の歯科予算概算要求額15億円の満額回答を要望する。
歯科口腔保健・歯科保健医療の充実・強化として2年度は元年度の約2倍の15億4千5百万円を要求しているが、元来歯科予算は医科に比べてそのボリュームが格段に小さい。国民は歯科健診や予防処置による医療費の削減効果にエビデンスがあることを十分理解しており、また歯科が糖尿病などの様々な生活習慣病と密接に係わっていることも同様である。従って歯科予算の充実は国民の健康維持に大きく寄与することからも満額を要望する。

歯科口腔医療勉強会 緊急要望書

昨年末、「診療報酬改定はプラス改定に」「歯科関連予算は16億円満額確保を」と、歯科口腔医療勉強会(岸信夫顧問・山田宏座長)の43名のメンバーも結束して、安倍総理、二階幹事長や菅官房長官に直談判で歯科の重要性を訴えてきました。

診療報酬改定では、本体部分0.55%のプラス分を確保し、救急病院の働き方改革に0.08%が回ることになりましたが、残りの0.47%プラス分は医科…歯科…薬科の1.0…1.1…0.3という従来通りの

第1回の勉強会では、糖尿病内科医の西田互先生による医師からみた歯科の重要性について講義をいただき、活発な議論が行われました。今後数回勉強会を行った上で議員連盟として拡大し、骨太方針にある「生涯を通じた歯科健診の充実」を法文化すべく活動を展開していきます。

(詳細は裏面をご覧ください)

歯科口腔医療勉強会(令和元年12月現在)

相談役	衆議院議員	田村 憲久
相談役	参議院議員	関口 昌一
相談役	参議院議員	島村 大
相談役	衆議院議員	渡辺 孝一
相談役	前衆議院議員	比嘉 奈津美
相談役	衆議院議員	白須賀 貴樹
顧問	衆議院議員	岸 信夫
座長	参議院議員	山田 宏
事務局	衆議院議員	長尾 敬
	衆議院議員	上野 宏史
	衆議院議員	大串 正樹
	衆議院議員	岡下 昌平
	衆議院議員	小倉 将信
	衆議院議員	小田原 潔
	衆議院議員	鬼木 誠
	衆議院議員	木村 弥生
	衆議院議員	古賀 篤
	衆議院議員	小林 鷹之
	衆議院議員	斎藤 洋明
	衆議院議員	佐々木 紀
	衆議院議員	繁本 護
	衆議院議員	田中英之
	衆議院議員	田畑 裕明
	衆議院議員	中谷 真一
	衆議院議員	根本 幸典
	衆議院議員	船橋 利実
	衆議院議員	堀内 詔子
	衆議院議員	本田 太郎
	衆議院議員	三ツ林 裕巳
	衆議院議員	宮澤 博行
	衆議院議員	山田 賢司
	衆議院議員	鷲尾 英一郎
	衆議院議員	和田 義明
	衆議院議員	磯崎 仁彦
	衆議院議員	磯崎 巧
	衆議院議員	大野 泰正
	衆議院議員	上野 良祐
	衆議院議員	酒井 庸行
	衆議院議員	末松 信介
	衆議院議員	中泉 松司
	衆議院議員	丸川 珠代
	衆議院議員	山下 雄平
	衆議院議員	吉川 ゆうみ

折り返し点を越え、さらに前進

平成28年7月の参議院選挙で、皆様の力強いご支援をいただき3年半が経過しました。私の「歯科を国の健康政策のど真ん中にする」という志は、ますます強くなっています。

この3年半の歯科関連予算の推移(グラフ1)は、歯科が国の健康政策の柱として認知されてきた証左です。私はこの正しい流れを、さらに一歩一歩確実に進め、さらに多くの種に増やし、歯科界が正当な評価を受けられるよう今年も全力で頑張る決意です。



令和元年12月17日号 日本歯科新聞より



昭和33年(1958年)
1月8日生まれ(61歳)
京都大学法学部卒業。
松下政経塾第2期生。
東京都議会議員(2期)
衆議院議員(2期)・
杉並区長(3期)

「国民皆歯科健診」目指す

議員連盟の発足見据え勉強会

十國聯盟

三三三

歯科健診が必要なのか?では、残存歯数と医療費、入院日数との関係や、歯周病の炎症による全身への悪影響について紹介。歯周病菌が

や、糖尿病、認知症にも関与病が関係していることなどについて説明し、歯科の重要性を広く国民に伝えることが望まれると訴えた。

- ▼田村嘉久(衆)
- ▼長尾敬(衆)
- ▼藤井基之(参)
- ▼古原圭司(衆)
- ▼三ツ林裕田(衆)
- ▼山田宏(参)

(敬称略、五十音順)

- ▼石田昌宏(参)
- ▼岸信夫(衆)
- ▼小林鷹之(衆)
- ▼後藤茂之(衆)
- ▼柴山昌彦(衆)
- ▼島村大(参)

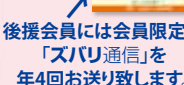
山田宏を 先生方の現場の声をお聞かせください。



「骨太方針」2017・2018、そして2019でも更に踏み

次は「生涯を通じた歯科健診」の法制化を目指し、歯科口腔医療の大切さが広く国民に浸透するよう働いてまいります。

ぜひ、ご入会いただき山田宏の活動をご支援いただけますようお願い申し上げます。



⇒ぜひチェックしてください！
お問い合わせはこちらにお願いいたします。

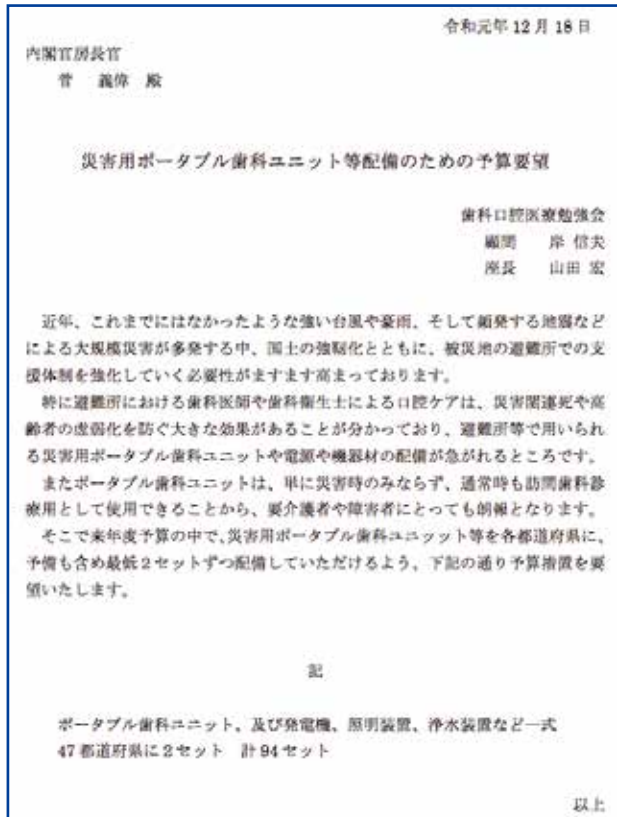
山田宏 国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館1205号室
Tel.03-6550-1205 Fax.03-6551-1205

山田宏の日々の活動は、ホームページ、フェイスブック、ツイッターでご紹介しています

山田宏公式サイト:www.yamadahirosi.com
山田宏公式Facebookページ:
<https://www.facebook.com/yamadahirosi.page/>
山田宏公式ツイッター:@yamazogaikuzo

令和元年12月16日 二階俊博幹事長に申し入れ

来年度歯科関連予算の増額に向けて、歯科口腔医療勉強会のメンバーで、二階幹事長に最後の要望に伺う。それぞれのメンバーが一言ずつ、歯科の重要性を訴えました。



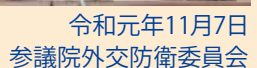
災害用ポータブル歯科ユニット等配備のための予算要望書

12月16日 二階幹事長に要望

12月18日 菅官房長官に「災害時ポータブル歯科ユニット配備」を要望

歯科口腔医療勉強会での検討をまとめて、安倍総理への要望時に「災害時ポータブル歯科ユニット配備」を口頭で要望しましたが、国土強靱化のための予算を管轄している菅官房長官に強く必要性を訴えました。総理や官房長官からは「こういったものは必要」と力強い回答をいただきました。

習近平主席「国賓」来日に反対
日中関係は「正常な関係」に
戻ってはいない



今年4月に中国の習近平国家主席が「国賓」として来日します。私は昨年11月7日の参議院外交防衛委員会で、茂木外務大臣に対して「国賓」招待に疑問を投げかけ、日中間の懸案事項や世界が危惧する中国の人権弾圧状況が全く改善されない中で、「国賓」招待に反対する質疑を行いました。

まず尖閣諸島周辺では、毎日のように中国公船が領海侵犯紛いの挑発を繰り返しており、2013年以来改善されるどころか酷くなっています。また「スパイ罪」などの容疑で拘束され服役させられている邦人が10名おり、どの行為がどの法律に違反したか明らかにされないまま不当な拘束が続いています。

またチベット、ウイグル、南モンゴルでは、中国政府による民族や宗教の弾圧が続けられ、香港では警察や軍隊による民主主義運動の鎮圧がエスカレートし、全世界から非難の声が上がっています。

こんな状況の中、中国の国家主席を天皇陛下の招待である「国賓」という最高待遇で迎えてよいのでしょうか。1989年に一般民衆が軍によつて多数虐殺された天安門事件で、世界中から非難を浴び孤立していた中国を救ったのは、1992年の天皇陛下の訪中で、世界から日本の「抜け駆け」と批判を受けました。もし習近平主席の「国賓」招待となれば、また「自分さえよければいい」「日本と批判されることは確かだ」と思います。

私の質疑後、「国賓」来日反対の声は日増しに大きくなっています。

11月7日参議院
外交防衛委員会での
質疑は→



11月7日参議院
外交防衛委員会での
質疑は→

